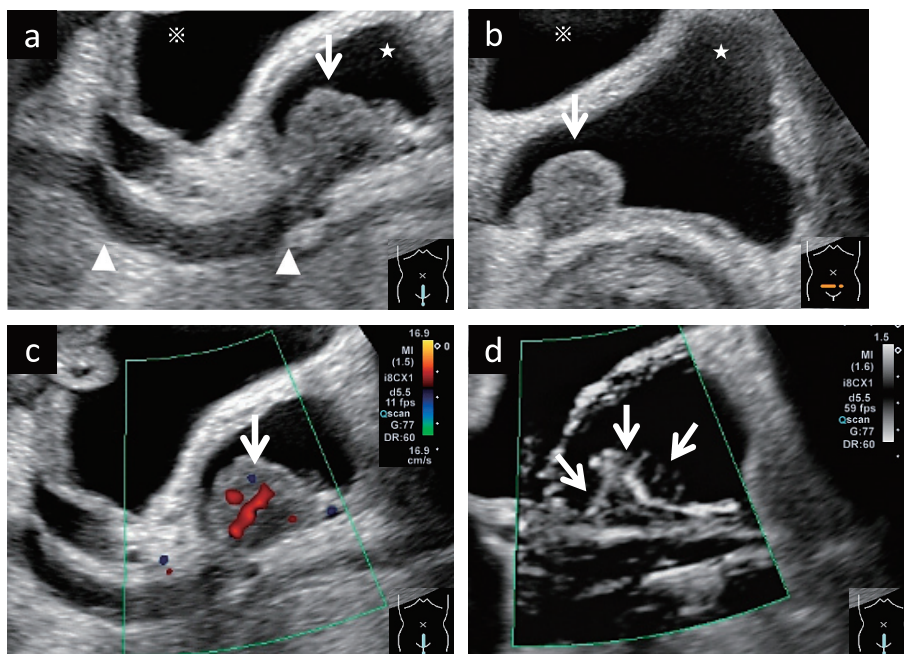


尿管腫瘍膀胱内浸潤の1症例

田端 強志¹ 丹治 直映¹ 東丸 貴信²

Fig. 1 膀胱・尿管超音波検査。
a 膀胱縦断像（白米印：腹水，白星印：膀胱）。
b 膀胱横断像（白米印：腹水，白星印：膀胱）。
c 膀胱縦断像（カラードプラ）。
d 膀胱縦断像（SMI）。
 縦断像で右尿管は拡張しており内腔に充実性エコー像を認め（**a**: 矢頭），膀胱内腔へ突出していた（**a**: 矢印）。横断像で膀胱後壁側（右側）に充実性腫瘍像を認めた（**b**: 矢印）。カラードプラで膀胱腫瘍内に血流信号を認めた（**c**: 矢印）。SMIを用いることでより微細な膀胱腫瘍内部の血流信号を描出することができた（**d**: 矢印）



症例は75歳女性。右下腹部痛，肉眼的血尿を主訴に近医を受診し，膀胱腫瘍の疑いで当院を紹介受診した。超音波所見は右水腎症を認め，尿管も拡張していた。上部尿管と下部尿管に不連続に充実性エコー像を認めた。特に下部尿管の充実性エコーは膀胱尿管移行部へと連続し，膀胱内腔に突出していた（**Fig. 1 a**）。膀胱腫瘍の大きさは25×20 mm（**Fig. 1 b**）。カラードプラで膀胱腫瘍内に血流信号を認めた（**Fig. 1 c**）。また近年，低速な血流を明瞭に描出可能な新しいイメージング技術であるSMI（superb microvascular imaging）が開発された。この技術は関節リウマチや肝腫瘍の診断等に使用され，様々な領域での応用が期待されている。このSMIを使用することでより微細な膀胱腫瘍内部の血流信号を認めたことから（**Fig. 1 d**），右尿管腫瘍による膀胱内浸潤と考えられた。CT，MRIでも同様の所見を認

めた。膀胱鏡所見は，尿管口から尿管腫瘍の脱出を認めた。経皮的右腎瘻造設術後，経尿道的膀胱腫瘍切除術を行う予定であったが，積極的治療は希望されず経過観察中である。

腎盂，尿管，膀胱に多く発生する尿路上皮癌は尿路内腔全体に空間的，時間的に多発する特徴を有する。腎盂・尿管内腔に異所性に多発する場合や先行性に膀胱癌の既往を有する場合，また腎盂・尿管癌診断時に同時に膀胱癌を認める場合もある¹⁾。膀胱腫瘍の尿管浸潤か，あるいは尿管腫瘍の膀胱浸潤かを鑑別することが困難な場合があるが，上部尿路である尿管癌と，下部尿路である膀胱癌では，治療戦略が異なるので正確な診断が重要である。

本症例では，超音波検査で腹水のある好条件での観察により，尿管腫瘍と膀胱内に突出した膀胱腫瘍の連続性を描出することが可能であった。また，

A case of ureteral tumor involving bladder

Keywords: ureteral tumor, superb microvascular imaging, ultrasound examination

¹東邦大学医療センター佐倉病院生理機能検査部，²同循環器センター

Tsuyoshi TABATA, RMS¹, Naoaki TANJI¹, Takanobu TOMARU²

¹Department of Clinical Physiology, ²Department of Cardiovascular Center, Toho University Medical Center Sakura Hospital, 564-1 Shimoshizu, Sakura, Chiba 285-8741, Japan

Received on February 3, 2016; Revision accepted on March 2, 2017 J-STAGE. Advanced published. date: April 14, 2017